

Community & Friend

2025年1月号

有限会社アルファ
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎

過去の月間通信は <https://www.alphar-net.com/monthlymail.htm>

2024年



1月



2月



3月



4月



5月



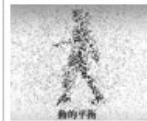
6月



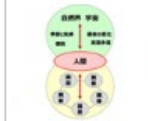
7月



8月



9月



10月



11月



12月

謹賀新年

昨年中は、弊社事業に御尽力いただき、

まことに、ありがとうございました。

本年も、何卒よろしくお願い申し上げます。

今年も、引き続きこの月間通信を発信していきます。過去の文は、上のような形で会社が HP に掲載してくれました。60 号まで積み重なり、私にしては上出来です。

さて、昨年 12 月号は MLB の WS の場面をイラストにして、ゲームの内容が変わって来ている事実を伝えようしました。MLB は Major League Baseball の事です。市場規模は凡そ 1 兆 5 千億円です。日本のスーパーマーケットの市場規模は 15 兆円程度ですから、その 1 割くらいのお金が 4 月から 10 月くらい迄で動く訳です。これだけの市場を支えているのは、単なる人気です。お腹は膨れません。観て応援しているだけです。この事業の中で大谷君は 10 年間で 1000 億円の guarantee、スポンサー契約総額もほぼ同じ年額を稼ぐ訳です。米国と日本の行き来プライベートジェットを使うというので、その料金を調べてみると片道 5000 万円でした。そこで、彼のギャラと私のギャラで比較してみると、何と 37,500 円の比率でプライベートジェットのコストが済む計算になり、めっちゃ安い訳です。贅沢でもなんでもなく、人の迷惑回避、と分かります。

これだけの市場規模を支えるのに、League が、どんなレベルの行動をしているのが今月のテーマです。

野茂君が MLB に行った年に、ロサンゼルスまで観戦に行きました。知り合いの社長が、『店舗リニューアルの為に視察に行くから着いて来い』と言うので『野茂を観に行くなら行く』と応えて、実現した訳です。1995 年、Windows95 が出た年です。確か 4 回くらいで Knockout されました。あの時代は普通に野球をしている印象でした。小学校の頃に憧れていた野村克也監督が Import Data 野球とか言っていたのも、この頃かなと思います。その頃から MLB の選手が何人か、日本でプレイするようになりました。その中に同じ南海ホークスに来たドン・ブレイザーって 2 塁手が野村に Thinking Baseball というのを教えて、それが ID 野球に繋がったそうです。

野球は、数と確率のゲームです。打者の打点は数、打率は確率です。投手は勝利数と防御率です。防御率は自分が投げた球で、つまり自分の責任下で取られた点数を 9 回に換算して出す、得点取られ率です。率は指標で、数は積み重ねの結果です。率で結果が変わります。粗利率を上げれば粗利額も上がります。道理は簡単ですが、その道理に係わる要素は無限です。この無限さに思考が始まり、その思考が複雑系の始まりとなり、やがて単純化されたときに技術が発見され、技術の再現性が率を高め、結果を向上させます。

<https://www.youtube.com/watch?v=xGVvejeIJmE>

<https://www.youtube.com/watch?v=yZ95kY6kAyM>



菊池雄星君、花巻東高校野球部出身で大谷翔平君の確か3年先輩です。彼は高校時代に甲子園で投げているのを観たことがあります。西部ライオンズに高卒ルーキーで入り、理由はいろいろ見聞きしていましたが、結果に繋がらず1~2年苦労を経験していたはずです。いつの間にか頭角を表し、2019年シアトルマリナーズに入団、その年にイチローが引退。その引退ゲームがシーズン開幕戦となり東京ドームで行われた終了後、イチローが挨拶を終えてベンチに帰って来た時、迎えに出て涙でクシャクシャの顔をしていました。来シーズンからエンジェルスと3年98億円で契約しました。上のURLふたつはPIVOTってビジネスパーソンのためのインタビュー番組です。ここで、彼は今季ブルージェイズからアストロズにトレードされ、その後見違えるような戦績を残して、MLBの奥の深さを表しました。

ブルージェイズでは、

22試合登板 4勝9敗 防御率 4.75

アストロズでは、

10試合登板 5勝1敗 防御率 2.70

同じピッチャーの同じボールで、チームを替わるだけで何故成績がこれだけ変わるのか。結論を先に書くと、チームのデータ管理能力の違いと言えます。分析するだけなら結果に繋がらず、次に対策を立てる能力が順番として出てきます。対策はあくまで仮説に過ぎないので、その策を実行する必要があります。ところが、この仮説を立てる者と、実行する者は別の人間となり、そうすると、説得力の問題がその次に出てきます。おそらくデータを扱う人間、対策を立てる人間が、説得する相手は有り余るお金を持っている選手となるでしょう。

そうなると、お金では説得できません。であれば選手の向上心が頼りとなります。野球界の世界の頂点に位置するLeagueに上って来ている選手なので、向上心が無い人間はほとんどいません。ほとんどというのは、天性で一時的成績を残し、長期の契約を勝ち取り、『もう適当でいいや』って選手も、未だいるにはいるからですが、時代が此処まで進むと、最早そういう人間は此処に到達できなくなるでしょう。言い換えれば、そこまで高次元にレベルが達したことになります。それは何がもたらしたかは、明らかでComputingの進化に他なりません。人間の手計算では、此処までのスピードに追い付けません。

Computingの進化が、人間の進化の手助けをし、進化した者のみが頂点に立てる時代を作っていると言っても過言ではないと思います。数と確率を追うならそれは、Computingの最も得意とするところ。ポイントは、そのコストが下がり小さなマーケットの中でも費用対効果のバランスが取れるようになったことです。先月号では、結果が出るための構造に焦点を当て、その構造が出来れば、ストックに実践を続けるだけだと書きました。すごく単純な成功への構図です。

構造構築のレベル、実践のレベル、世界の頂点に立つ者たちが、どのレベルで今の位置に到達し、その維持の為、更に上を目指しているかの一端が、先のURLをクリックするだけで見て感じる事が出来ます。ポイントは、如何に余分というか、余計なことを考えずに、ひたすら真っ直ぐにその道を歩めるかにあるとの、印象を持ちました。苦難はつきものです。苦難を乗り越えた者だけが到達できる地平だとすると、互いに敬意を持つことも当然の成り行きだと思います。愛とかそんな生易しいところにいると、憎しみにいつ鞍替えするか分かりません。6勝4敗、つまり勝率6割で優勝し、4勝6敗、勝率4割で最下位に沈む。そんな世界だそうです。紙一重のところでの厳しい市場です。驚いたことに各チーム瞑想部屋を持っているそうです。自分を捨てる為には、その内覧が必須となるのでしょうか。